



夏期研修講座ふりかえり

今年度の夏期研修講座は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、オンライン等により実施しました。内容等により、中止をした講座もありましたが、延べ736名の方々にご参加をいただきました。たくさんご参加いただき、ありがとうございました。提出いただいた各講座のアンケートを参考にして、今後も皆様のニーズにお応えできる研修講座を計画して参りたいと思います。

◆ 就学前保育教育講座 ◆

講座 1	開催日	8月4日(木)	配信場所	市役所4階 傍聴者控室	人数	21名
『子ども支援、子育て支援～就学を見据えた保育者・教職員の役割』	感想	○結果がどうよりも子どもの背景を見ることが大切ということが印象に残りました。子どもの行動に対して、なぜ?と考えていきたいです。園での子どもとの関わりで愛着形成をふくらませていけるように日々保育に努めていきたいです。 ○子どもの困り感についてのお話がとても印象的でした。園生活の中で困っているのは保育者ではなく子どもで、その困り感に早く気づいて、その子に合った支援をしていくことが何よりも大切であると再確認できました。また、子どもの姿をエピソードで保護者に伝えたと共に、その子が小学生にあがることを踏まえた支援の在り方を探っていきたいと感じました。 ○愛着形成の大切さを改めて感じる事ができました。子ども達が小学校に行った時に困り感を感じる事のないような関わりを意識したいと思います。				
岡山県立大学 現代福祉学科特任 准教授 周防 美智子 氏 						

◆ 特別支援教育講座 ◆

講座 2	開催日	7月29日(金)	配信場所	市危機管理センター3階	人数	92名
『ワーキングメモリーに課題のある児童・生徒への支援』	感想	○言葉を増やすためにもネットワーク化するのが効果的でかつ、なにかしらの体験を伴うもの(絵の言語化)が有用だということを学びました。学級経営で気をつけないといけないことを再確認できたのでこの夏休みに準備を含めて活かしていきたいと思います。 ○ワーキングメモリや語彙力、想像力を高めることが求められていますが、今回の研修を受けて、具体的にどのような指導、支援を行えばよいか、理論的な側面から学ぶことができました。特に、「2. 読み解く力とワーキングメモリ…」のところでは、関連する知識の獲得とともに、文脈に合わせて、いかにこの知識と文章中の情報を結びつけていくか、それが想像力になっていくという部分は、大変勉強になりました。ありがとうございました。 ○学びの環境をきちんと整えたり、学びにくさを理解することが大切であること、また、合理的配慮が必要な場合は、現在必要とされているものが何か、何を優先して提供する必要があるのかをよく考えて実現していくことが大切だということを学びました。				
びわこ学院大学 教育福祉学部 スポーツ教育学科教授 小西 喜朗 氏 						

講座 3・4		開催日	8月2日(火)	配信場所	市役所2階 第1会議室	人数	103名
『通常学級における子どもへ具体的な関わり、支援のあり方と特別支援教育における大切にしたい基礎基本』		感想	○貴重な講座をありがとうございました。私自身、特別支援教育が必要な児童や、個別の指導計画がある児童の引き継ぎを行う際に、自分目線の考えで書いてしまうことが多く、引き継ぐ相手が読みやすい書き方ができていなかったように思います。児童に合った支援を考え、取り組んだ内容とその評価を素直に書くことで児童のことを学校全体で考えることができるのだと学びました。また、自分も児童が少しでも授業がわかりやすいと思えるように指示の仕方や目標の示し方を工夫していきたいと思います。 ○子どもの行動の、「なぜ？」を考えられるための知識を持っておくことの大切さを感じました。自分を振り返ってみるとまだまだできていないことばかりでもっと違う視点を持って子どもと向き合えるようになりたいと思います。合理的配慮についても、どんなことが有効なのか多くの引き出しをもつことも大事だと思いました。 ○支援が必要な生徒との関わりの中で「どうしてできないの？分からないの？」と思ってしまう事が多いので、これからは「一緒に考えよう」というような声かけができるよう心がけたい。本人や保護者の不安は回りしれず、自分の考えが及ばないときもあるかもしれないが、生徒と保護者の声を丁寧に聞き、不安を一つずつ解消していくことを目標に、生徒支援に携わりたいと思った。				
講師	栗東市発達支援アドバイザー 福井 芳彦 氏						
講座 5・6		開催日	8月5日(金)	配信場所	市危機管理センター2階	人数	74名
『切れ目のない支援をめざして～サポートファイルで、つなぐ・つながる～』		感想	○切れ目のない支援のために、子どもたちのことをよくみとり、引き継いでいくことの大切さを改めて感じた。また、これまでもしてきたことではあるが、対象児童の困難さだけでなく、プラスのエピソードの蓄積の大切さを再確認した。 ○支援について、この支援がその子の将来にとってどのような意味があるのか、この支援が適切であるのか、悩むことが多いが、今日のお話でKさんの取り組みについて、またその将来の姿について教えていただくことができ、改めて切れ目ない支援の必要性がわかりました。よい人柄に育てるという意識は、とても納得ができます。その気持ちで教育にあたりたいです。 ○こだわりのある子どもとの関わりから不適応な行動の中にも、その子の思いがあることがわかった。それぞれの子どもの思いや特性を十分把握しながら、支援していきたい。また、幼稚園から就労までの縦の連携や様々な人や機関との横の連携(縦横連携)の大切さも学べた。				
講師	加東市発達サポートセンター教育相談員 小林 茂 氏						
講座 7・8		開催日	8月9日(火)	配信場所	市役所4階 委員会室	人数	85名
『通級指導教室と通常学級の連携、読み書きの苦手な子どもへの指導』		感想	○沢山の実践を紹介していただき、大変参考になりました。マイノリティとマジョリティのお話では、自分の当たり前が、知らない間に周りの人を傷つけているかもしれないという怖さを感じ、学級の子どもたちにも折に触れて、伝えていきたいと思いました。また、子どもと一緒に決めることの大切さを学びました。なぜそうするのか、どうしたらやりやすいかなど、大人が決めるのではなく、子どもに相談して一緒に決めていくことで、子どもも主体性をもって、通級でも学級でも学んでいけるのだなと思いました。 ○褒めるために目標を立てるということを学びました。ペアで学ぶことで相乗効果があったときいて、指導の場面では、取り入れてみようと思いました。道具や教材を工夫して、9月からの指導をがんばっていきたいと思える講座でした。 ○いろいろな教材を見せてくださったり、具体的な例を示してくださったりしたので、とてもわかりやすかったです。教材をみながら、自分でも工夫して制作してみたいなりました。「知らないうちに傷つけているかもしれない」という言葉が心に響きました。心しておきたいです。				
講師	エリアコーディネーター 通級指導教室 (加古川市立小学校) 尾住 奈未 氏						

◆生徒指導・教育相談講座◆

講座 9		開催日	7月29日(金)	配信場所	市危機管理センター3階	人数	48名
『いじめ問題に関わる子ども・保護者への対応について』		感想	○具体的な事例から、いじめ事案の聞き取りの際の留意点を振り返ったり、解決のための情報のとらえ方について考えることができた。予防を第一に考えているが、起きてしまった際の初動の学年・校内連携について想定し、共有しておきたいと思った。 ○様々な事例を通して、学校がいま直面している課題の対応を学ぶことができました。学校では「できないこと」や「しなくてもよいこと」までやろうとして、うまく進められず停滞したり摩擦が起きたりしているように感じていました。できることをしっかりやるということを念頭に、がんばろうと感じました。 ○山本先生から、力強いエールをいただいたような気がします。是々非々という言葉が出てきましたが、子どもや保護者さんの悩みや苦しみを軽減したいという思いから、無我夢中になりすぎていた自分がいるのも否めません。ときには客観的立場から見つめ、冷静な判断をすることも大切だと再確認しました。				
講師	栗東市 いじめ問題調査委員 滋賀県弁護士会会長 山本 久子 氏						
講座 10		開催日	8月1日(月)	配信場所	市危機管理センター3階	人数	34名
『事例から考える子どもと保護者の理解と支援、関係機関との連携～SSWの視点から～』		感想	○事例をもとにした研修だったので、とても分かりやすく、勉強になりました。子どもの問題行動が見られたり、保護者との関係が悪くなったりすると、焦ったり、落ち込んだりしがちな私ですが、それよりも、どうしたらこの問題は解決するのか、行動の原因となるものはなんなのか、というのを、1つずつしっかりとアセスメントしていく必要があるのだと、改めて感じました。 ○具体的な事例をみて、自分ならどうつなぐか、ということをじっくり考えられました。保護者を入れての家族応援会議が大変興味深く、勤務校でも必要なのかも、と思う事例でした。様々な背景を背負って、児童は入学しています。教えていただいたことを実践し、児童に返していきたいです。 ○関係機関との連携において、園や学校のプランニングはとても重要だと感じた。関係機関につなぐことができたからこそゴールになってしまわないように、スタート地点によりやく立つことができたという認識で、その子に対する支援をあらゆる方面から考えていきたいと感じました。また、子どもの困り感を担任一人で抱え込まずに、校内で連携することの大切さを SSW の先生と接する中で、学ばさせていただいたと思います。				
講師	滋賀県スクールソーシャルワーカー 津村 祥枝 氏						
講座 11		開催日	8月8日(月)	配信場所	市役所4階 委員会室	人数	23名
『問題行動を捉えなおす援助の視点～トラウマの「メガネ」で見よう～』		感想	○様々な視点からトラウマの表れについて学ぶことができ、大変勉強になりました。上手く自分の気持ちを表現できない子どもたちにどのように関わったらよいか考えて、言葉がけができるようにしていきたいです。 ○架空事例の中に、本校の児童の顔が何人も浮かんできました。なかなか家庭に踏み込んでいけないケースの子どもたちですが、今後も奥の家庭背景などを探り、孤独にさせない、さらなる傷つき体験をさせないように、児童と一緒に考えていきたいと強く思いました。 ○「困る子」は「困っている子」まさにその通りで、ご講義を聞きながらたくさん児童の顔が浮かびました。家庭の背景が複雑で、落ち着いて教室にいられない児童にはたくさんのトラウマがあり、その心の中に寄り添って支援を考えて行くことが大切であると改めて思いました。家庭の協力が必要であるにも関わらず、学校のことは学校で、と言い切る保護者さんもいるので、関係機関と協力しながら保護者さんにも寄り添って丁寧に対応していこうと思いました。9月からもしっかり心がけていきます。大変勉強になりました。ありがとうございました。				
講師	栗東市巡回スクールカウンセラー 佐々木ゆみこ 氏						

◆保育・教育研修講座◆

講座 12		開催日	8月8日(月)	配信場所	市役所4階 委員会室	人数	26名
『これまでとこれからの 外国語教育』		感想	○外国語の授業の研修でしたが、今日学んだことは他教科にも活かせるなあと感じました。常に相手意識、目的意識、ほんもの、コミュニケーションの楽しさなどについて教師も子どもも感じていかなければならないんだなあと ○大それた「言語活動」ではなく、身近な中から見出して、活動を設定していきたい。外国語は使ってこそ慣れていくものであると思うので、目的、場面、状況を明確に設定し、授業の中でたくさん子どもたちが使えるような活動を設定していきたい。 ○「言語活動」という言葉に対して、漠然とした理解しかありませんでしたが、今後は必然性、相手意識、ほんもの、コミュニケーションの楽しさや意識、を意識して、行っていきたいと思いました。初めてこういった研修に参加させてもらいましたが、他の指導者との交流などもあり、自分の知見が広がりました。				
講師	文部科学省 初等中等教育局視学官 直山木綿子 氏 						
講座 13		開催日	8月19日(金)	配信場所	市役所4階 傍聴者控室	人数	23名
『学級経営、授業実践から 学ぼう』		感想	○子どもたち同士で交流をし、自分のことと向き合い、考えを再構築していく授業づくりを、アンケートを通して、子供たちの気持ちもしっかりと見ていかれており、また繰り返し改善を行われている事で、教師自身も学び続けておられると感じました。 ○子どもの実態に応じて、臨機応変に授業を作っていく柔軟さの大切さを感じました。				
講師	*金勝小学校 延命 成弥 教諭 「教科を窓口にした学級づくり～図画工作科の指導を通して～」 *栗東中学校 兼山はるか 教諭 「栗東中学校の学級会～安心して話し合い活動ができる集団を目指して～」  		○学校全体で統一した取り組みをされているので、子どもたちもとても活動しやすく、安心して発言ができ、生徒中心で活動が行われているので、発言のしにくい生徒も、話しやすい範囲で発言ができるのではないかと感じました。 ○子ども達が自身を持って話し合いに参加したり、発言したりできるよう、自治的な活動を行う必要があると改めて感じました。				
講座 14		開催日	8月2日(火)	配信場所	栗東中学校 メディアルーム	人数	37名
『タブレット活用等の授業実践に関わる基礎編』		感想	○初めてじっくりとタブレットに触れさせてもらいました。色々な機能があり驚くと同時に、活用できれば、かなり仕事の効率化が図れると感じました。今後もこういった研修に参加したいです。講師の方がゆっくり話してくださり、わかりやすかったです。 ○クラスルームの基礎的なことを教えていただけてよかった。なかなか授業で活用できていないので、これを機に使ってみたいと思った。 ○普段の授業で活用できるような機能がたくさんあるんだと改めて学ばせていただきました。意見を言うことが難しい生徒が、意見を言うためのツールとして jamboard を使うのはとても効果的で、周りの生徒も理解しやすいものだと感じました。日頃から生徒のことをよく考え、教師の少しの工夫が必要なんだと思いました。				
講師	Goole 社 認定講師 高原 健人 氏 長谷川 藍子 氏 						

講座 15		開催日	8月5日(金)	配信場所	栗東中学校 メディアルーム	人数	26名
『タブレット活用等の授業実践に関わる応用編』		感想	○今までクロームブックを使ったことがほとんどなかったため、授業などでも使ってみたいと思うことはあっても不安で使うことができなかった。今日の講座では、実際に操作をすることで、基本的な使い方から効率的な使い方など、多くのことを学ぶことができた。ICTの活用を如何にするかを考えていたが、子どもたちの学びを深めるための道具であり、使うことが目的になってはいけないと改めて感じた。				
Google社 認定講師 立石 萌香 氏	○具体的に操作しながら、受講させてもらったので、ただ聞くだけよりもより定着したと感じています。基本的な使い方は概ね知っていましたが、フォームの回答の条件付けなど、活用してみたい知識も得ることができてよかったです。						
講師		○それぞれのアプリの詳しいところまで教えていただくことができて非常に勉強になりました。今後本校での利活用を深めていきたいと思います。					
講座 16		開催日	8月4日(木)	配信場所	栗東中学校 メディアルーム・会議室	人数	23名
『クロームブック等のICT機器を活用した授業実践事例紹介編』		感想	○『GIGA 開き』として、chromebookの使い方やルールを徹底することの大切さを感じるとともに、さまざまな教科を通しての活用事例を学ぶことができました。クラスルームの活用を通して、学級のつながりが広がっていく楽しさを感じました。				
栗山東小学校 高橋 享 教諭	○体育科は、視覚支援しにくい教科であるとイメージが強かった。しかし、クロームブックの動画や写真を使うと、客観視でき、自分の姿を見つめ直して改善点を把握しやすく、成長につながると感じた。今後、実践していきたいと思う。						
治田西小学校 野嶋 宏史 教諭		○chromebookのメリットとデメリットをふまえた上で、仕事の軽減・作業の効率アップという視点からchromebookをツールとして活用するということを学ばせていただきました。chromebookの良さを生かすことができる指導を厳選しながら活用していきたいと感じました。					
栗山中学校 奥田 耕士 教諭	講師	○他校とのオンライン学習が勉強になりました。市内の子どもたちの交流の機会が減っているなか、授業で取り扱い、発表させることが素晴らしいと思いました。中学校でもMeetを使い交流できたらと思います。					
大宝小学校 布施 芳樹 教諭							
治田東小学校 木戸 雄大 教諭	感想	○ICTを利用することで、子どもたちの思考が深まったり、広がったりすることが本当の意味での『ICTの活用』であると再認識することができました。指導者が、子どもたちにつけたい力を明確にして、何のためにICTを使うのかを考えて授業づくりをすることが大切だと感じました。					
栗東西中学校 大埜 剛 教諭							
		○一人一取り組みで、ICTを使った授業内容を記録し、共有することが大切だと理解しました。取り組みをまとめた動画の中に写る、子ども達と先生方が笑顔で楽しく活動していることから、ICTがとても効果的だと感じました。					

◆一般教育研修講座◆

講座 18		開催日	8月4日(木)	会場	栗東西中学校 会議室	人数	37名
『無関心でいられても無関係ではられない人権問題 ～インターネット上の部落差別の現状等から考える～』		感想	○特権の話も、自分にとっては当たり前なことも実は特権だったんだと気づかされました。自分もまだまだ無意識に人を差別していること、無知から相手を傷つけてしまっていること、たくさんあると思います。これからも積極的に学び、人権感覚を磨いていきたいです。				
反差別・人権研究所みえ 常務理事兼事務局長 松村 元樹 氏			○自分に優位なことは気づきにくいという話を聞かせていただいて、気づかないうちに誰かを傷つけたり、偏った考え方をしていたりするのではないかと考えさせられた。自分の差別心としっかり向き合い、まずは知ることを大切にしたい。				
講師		○知らず知らずのうちに、マジョリティとして無関心でいたり優位に立っていたという意識が欠落していた。本日の講座で気づかせていただいた。差別をなくすために自分が何ができるか考えていきたい。					
		○“自分にとって有意なことは気づきにくいまさにその通りだと思った。私に言われていると感じた。感性を磨き続けていきたい。					

講座 19		開催日	8月18日(木)	会場	大宝東小学校 多目的室	人数	36名
『問題の所在はどこか？ -L/G/B/T'sの存在が 問いかけるもの-』		感想	○LGBTの子どもたちの気持ちを知るきっかけとなりました。最近では保幼の現場でも男女で分けて指導するようになってきましたが、まだまだ思いが至ってなくて辛い思いをさせてしまっていることもあるだろうと思われました。今日学ばせてもらったことを、現場や日頃の生活に活かしていきたいと思います。				
京都府立高等学校 教員 土肥 いつき 氏			○世の中がカテゴリを決め、それを自分が刷り込まれ、子どもたちにはめこんでいることも多いと感じた。自分が色々な「多様性」に気づき、「共に」と思える人間になりたい。まずは、気づきたい。				
講師		○性別は2つではないという意識を根底に、今までの自分にとって普通であった見方を変えてみるところからはじめ、今日のような学びの場を自ら探していきたいと思います。					

講座 20		開催日	8月19日(木)	会場	大宝東小学校 多目的室	人数	48名
『部落差別(同和問題)の 解決のために 一人権文化あふ れるまちづくり-』		感想	○話を聞いて、自分の中になる差別心に改めて気づくことができた。差別をなくす当事者は自分だということを再度考えるきっかけになった。研修等に積極的に参加したり、人との出会いを大切に、人権意識を変えていきたい。				
大阪多様性教育ネットワ ーク 共同代表 土田 光子 氏			○みんな同じがいい、傷つけてはいけない、いいところ探し、ほめまくる等々、それがいい、大切なことと思っていたが、非難すること、反抗することも必要、してもいいことなんだと気づかされた。大人も子どもも、ちょっとしたことで折れない心を持てるようにしたいし、そんな子どもたちを育てていきたいと思った。				
講師		○土田さんの歯に衣を着せない迫力のある講義に引き込まれ、多くのことに気づくことができた研修でした。「批判することを避けていないだろうか?」「お互いの思いを率直に出し合い、議論しあい、高まりあえる教師集団であるだろうか?」など、自分自身を見つめ直す良い機会となりました。					

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、下記の講座を中止させていただきました。

○講座17『思春期ライフスキル教育講座』

ライオンズクエスト認定講師:寺本 之人 氏

○『学級づくり等に活かせるQ&A相談教室』

栗東市内小中学校教務主任

栗東市立教育研究所 520-3088 栗東市安養寺一丁目 13-33 栗東市教育委員会事務局内

TEL 077-551-0130 ・ FAX 077-551-0149

E-mail kenkyusho@city.ritto.lg.jp

